

平成25年度学校評価結果報告書
(年度末評価)

平成26年4月30日

広島県立黒瀬高等学校

目 次

- 1 平成25年度自己評価シート(年度末評価)・・・・・・・・・・p.1
- 2 平成25年度自己評価シート(年度末評価まとめ)・・・・・・・・p.5
- 3 平成25年度学校関係者評価シート(年度末評価)・・・・・・・・p.7

平成25年度自己評価シート(年度末評価)

校番	44	学校名	広島県立黒瀬高等学校	校長氏名	田中 清裕	(全)定・通	(本)分
----	----	-----	------------	------	-------	--------	------

学校経営目標					
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等	
1 自律的規範意識を身につけた生徒を育成する					
生徒が自律的規範意識を身につけるように取り組む	(1) 各学期無遅刻者割合数	C	1年 55%, 2年 47%, 3年 57%, 全体 53%	学年主	生徒指導部
	(2) 年間転退学者数	B	転学者 14名 退学者数 10名	学年主	生徒指導部

【評価結果の分析】

(1)について

1回の遅刻後、2回目を阻止することができた生徒が少なからずいる。

(2)について

進路変更の希望者については、早期に三者懇談を実施し対応した。年度末に進路変更の生徒が増えた。

【今後の改善方策】

(1)について

「皆勤」という目標への意識付けをもっと積極的に行う。基本的生活の確立のため、個人面談の際の大きな指標とする。

(2)について

適切な進路選択の実現のために、保護者と学校側の連携内容を深く進めていく。

2 主体的な学習により、自己を開発し、希望進路を実現する生徒を育成する					
生徒の基礎学力を向上させる	(1) 共通学力テスト平均通過率 60%以上の生徒 2年生人数	C	目標(国語61人, 数学33人, 外国語42人)に対して, 国語37人, 数学19人, 外国語35人)であった。	教務部	
	(2) 共通学力テスト平均通過率 30%以下の生徒 2年生人数	C	目標(国語0人, 数学10人, 外国語11人)に対して, 国語3人, 数学25人, 外国語13人)であった。	教務部	
	(3) 到達度目標, 評価方法を示したシラバスの作成	B	到達度目標を示した平成26年シラバスを作成し, 生徒が活用する方策を決めた。	部 教務	
進路希望を実現させる	(4) 個人カルテを各学年で作成し面接を充実させる。就職率 100%達成を継続する。	A	個人カルテを用いてのキャリア開発検討会を全学年で実施した。就職一次合格率は80%, 12月時点で就職率100%を達成した。	進路指導部	
介護員養成研修2級(2年), 今年度からはじまる介護職員初任者研修(1年)を確実に履修させ, 効果的に知識技術の向上をさせる	(5) 介護の知識・技術の確認評価とプロセス評価を段階的に行い, 修得認定者を100%とする。	B	資格取得に対しての必要な指導を行い, おおむね守られた。到達目標や学年に合わせた小目標を提示し定期考査の7割を合格とし追試を課して知識技術の確認を行っている。介護員養成研修2級(2年)の認定者は現在12人で, 不認定の生徒には必要な追認の指導を行っている。介護職員初任者研修(1年)について生徒・保護者に説明し, 1月から開始した。提出や記録内容指導等個別指導も含め実施している。	福祉科	

【評価結果の分析】

(1), (2) について

現2年生が1年生のときに実施した共通学力テストにおいて、平均通過率 60%以上の生徒は、国語 52 人、数学 24 人、外国語 33 人であり、国語、数学では平均通過率 60%以上の生徒は、それぞれ9人の減少し、外国語は2人増加であった。

一方、現2年生が1年生のときに実施した共通学力テストにおいて、平均通過率 30%未満の生徒は、国語3人、数学 16 人、外国語 17 人であり、国語では増減なし、数学では9人増加、外国語では4人減少した。

国語では、知識・理解、書く能力は上昇したが、読む能力が低下した。ベネッセの進路マップによると、基礎学力が1年生の時より上昇した生徒が30人以上いるものの、下位層も増加しており、二極化が進んでいることがわかる。また、特に古典分野の基礎事項の正答率が低い。

数学では、数学的な見方や考え方、二次関数、数と式の能力は上昇したが、知識・理解、関心・意欲が低下した。ベネッセの進路マップによると、中学校段階の基本問題、図形と計量の正答率が低い。

外国語では、聞くことの能力が著しく上昇した。ただし、読む能力は低下している。ベネッセの進路マップにおいても、読解力及び文構成の分野の正答率が低いことがわかる。

(3)について

本年度、到達度目標、評価方法を示したシラバスを作成して1年生において活用した。基礎的な内容と発展的な内容で到達度目標を示すことで、生徒が自分の状態と目指すべき状態とを比べながら学習に取り組むことができる。来年度においては、1, 2年生の科目において到達度目標、評価方法を示したシラバスを作成するとともに、生徒がシラバスを用いて到達度を評価し、自身の学習の振返りにシラバスを活用する。

(4)について

全学年で個人カルテを作成、キャリア開発検討会を実施し、生徒一人ひとりの進路希望や課題を確認した。今年度は年度当初からJSTが配置され、就職希望生徒への面接指導や講話を通しての指導や、教員対象の研修会などを実施した。JST、進路指導部、学年会が連携し、就職一次合格率は 80% (昨年度 72%) であった。また 12 月時点で就職率 100%を達成した。(昨年度 3 月上旬)

(5)について

今年度、2 年生介護実習時に中間考査が入ったため、考査の追試や提出課題、介護実習の指導と重なり、生徒は介護員養成研修2級認定試験への取り組みに十分集中できず、追試の機会も例年より少なくなった。生徒の学習速度や学習集中度の下がる中、補充指導での集中指導となった。第 1 段階の認定に無欠席で試験合格した者が 3 人であった。現在、今年度中の認定に向け指導中である。介護員として必要な実践力を身につけ規準に到達するよう指導する。

【今後の改善方策】

(1)(2)について

本年度の共通学力テストの結果から授業計画の課題・成果を分析し、授業改善計画を策定する。

(3)について

到達度目標を明記したシラバスについて、内容やその活用方法について具体的な計画を作る。

(4)について

本年度はじめて導入した、個人カルテを用いたキャリア開発会議を充実させて、生徒一人ひとりに対する指導を行う。

(5)について

介護員養成研修2級(2 年)認定追試験を順次行っている。また、欠席への補充指導の指導をしている。段階を分けながら規定により認定を出していく予定である。

介護職員初任者研修(1 年)について、資格取得に対し生徒・保護者に意識付けを日常的に行い、学習や実践力を身につけるよう指導する。

3 「元氣な声が聞こえる学校」づくりを推進する				
生徒が部の活動に誇りを持ち、主体的、計画的に部活動を行う	(1) 実際に活動する生徒の割合(定着率)を増加させる。	B	年度当初の入部率が 71.5%であるのに対し、年度末の入部率が 70.3%であった。実際の定着率は昨年度よりは15%上昇した。	特別活動部
	(2) 体育部の県大会以上出場、文化部の県レベル以上の入賞を増やす。(のべ回数)	B	体育部の県大会以上出場は 5 競技 18 種目であった。文化部では1団体が全国展覧会に入選し、1団体が県レベルの大会に出場した。	特別活動部

	(3) 社会貢献(挨拶運動・美化作業)を通じ、部活動単位での活動回数を増やす。	B	挨拶運動に重点を置き、割り当てを組み実施した。部員が集まらず、実施できない日もあったが、全クラブ参加した。	特別活動部
豊田高校との学校間連携に係る教育内容を充実させる。	(4) 行事・部活動への生徒及び教職員の相互参加と交流	B	① 2学期において、豊田高校での公開研究授業、本校での授業研究への豊田高校からの参加が実施された。 ② 3年介護実習報告会に豊田高校から生徒が参加し、意見交換を行った。 ③ 1学期と3学期に、合同の進路説明会を行った。 ④ 相互の文化祭への訪問を行った。茶華道部の交流を行った。	全分掌 全教科

【評価結果の分析】

(1)について

1年生1学期全員入部の取組みにより、入部率と定着率が上がったが、学業成績不振で部活動の時間に参加できない生徒の増加があり、70.3%にとどまっている。

(2)について

練習環境の向上は生徒にやる気を起こさせ練習効率を上げたが、文化部の活動が沈滞している。和太鼓部は県の郷土芸能大会に出場したが入賞はなかった。

(3)について

日程どおり部員が集まらないこともあったが、積極的に声を掛け合い挨拶運動に参加したクラブもあり、すべての部が参加し校門前に立ったことは大きな収穫であった。

(4)について

学校連携2年目とうことで、教員同士の交流も進み、合同進路説明会もスムーズに行えるようになった。

【今後の改善方策】

(1)について

数字の上では1年生全員入部のために入部率は高くなっているが、実際の定着率を維持できるような工夫が必要である。

(2)について

各部活動においての目標設定を明確にして、更なる上位の結果を狙い活性化につなげたい。

(3)について

学校生活上での部活動の評価や周囲の注目度を高め、モチベーションをあげる。

(4)について

文化祭開会式など互いに刺激を受けられるような中身の充実した内容に改良していく。

4 地域社会に貢献する生徒を育成し、地域に開かれた学校づくりを行う				
広報活動を充実させるとともに、中学生・保護者から選ばれる学校をつくる。	(1) 普通科・福祉科とも、選抜(Ⅰ)(Ⅱ)の志願倍率を1.0倍以上にする。	B	選抜(Ⅰ)の志願倍率は普通科2.38倍、福祉科0.75倍、選抜(Ⅱ)の志願倍率は普通科1.22倍、福祉科0.88倍であった。	総務部
地域に貢献するボランティア活動を充実させる。	(2) 園芸活動への参加を増やす。	A	クリーンアップや掃除時間を利用して活動している。参加人数は192人で目標の160人を達成した。	生徒指導・総務・特別活動 各学年会
	(3) 普通科生徒のボランティア活動参加者を増やす。	A	各クラス担任を通してその都度参加者を募り参加活動を行った。現在のべ45名の生徒がボランティアに参加しており、目標の50人にと少しであった。	

		(4) 福祉科の学習をボランティアや地域活動に展開し、福祉科生徒の参加率(参加人数/生徒数)をあげる	A 東広島市社会福祉協議会等と連携し、地域の方々と交流した。文化祭・体育祭交流、さつまいもの栽培交流、昔の遊び・昼食会等の交流を行った。黒瀬町健康福祉まつり、障害者(児)クリスマス交流会等でボランティア活動をした。参加率181%(130人)であった。	福祉科
--	--	--	--	-----

【評価結果の分析】

(1)について

選抜(Ⅰ)は普通科は昨年度を上回る志願倍率だったが、福祉科は昨年度よりも0.05ポイント低い結果となった。

選抜(Ⅱ)は普通科は昨年度を0.2ポイント下回ったが、福祉科は昨年度より0.23ポイント上がった。

(2)について

掃除時間やクリーンアップを利用して活動を行い、多くの生徒が前向きに取り組んだ。

(3)について

障害者のスポーツ大会の補助や赤い羽根募金など、生徒は自主的にボランティアに参加をした。

(4)について

東広島市社会福祉協議会等と連携し、文化祭・体育祭への参加交流、さつまいもの栽培交流、昔の遊び・昼食会等の交流、黒瀬町健康福祉まつり、障害者(児)クリスマス交流会を毎年共同募金事業の一環として活動している。生徒は積極的に参加し、福祉の心が育ち、学んだことを生き生きと披露している。これまでの活動やつながりから新たなボランティア依頼があるが、学校内の日程や予定との都合があわず生徒の参加が出来なかったものもある。ボランティア参加延べ人数は増加した。

【今後の改善方策】

(1)について

福祉科の生徒募集について工夫が必要である。全県へPRすると同時に、通学可能な範囲の中学校に焦点をあてたきめ細かい取組みをすすめる。

(2)について

クラスの美化委員を活動させているが、来年度は自主的な参加者を増やし、内容を充実させたい。

(3)について

できるだけ多くの生徒に体験させてやれるよう生徒に働きかけをしていく。

(4)について

引き続き、ボランティア活動を積極的に進めるよう、本校から提案して多くの生徒の参加を促し、生徒を指導する。

平成25年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	44	学校名	広島県立黒瀬高等学校	校長氏名	田中 清裕	全日制	本校
----	----	-----	------------	------	-------	-----	----

1 評価結果の分析

【学校経営目標1 自律的規範意識を身につけた生徒を育成する】

- 無遅刻の生徒の割合は半数を超えており、皆勤賞を励みとしてがんばる生徒も多い。遅刻指導については1回の遅刻後の指導で2回目を起こさなくなった生徒も多い。
- 転退学者の数は増加した。

【学校経営目標2 主体的な学習により、自己を開発し、希望進路を実現する生徒を育成する】

- 全体的には共通学力テストの平均通過率の目標を達成することはできなかった。基礎学力向上のために、授業改善や家庭学習時間の増加を目指したが、生徒の意欲向上にはうまくつながらなかった。
- シラバスを用いて基礎的な内容と発展的な内容の到達度目標を示すことで、生徒が自分の状態と目指すべき状態とを比べながら学習に取り組むことができた。更に改善を続けたい。
- 全学年で個人カルテを作成、キャリア開発検討会を実施した。JSTの配置により、就職希望生徒への面接指導や講話を通しての指導や、教員対象の研修会などを実施した。就職一次合格率は80%(昨年度72%)で、12月には就職率100%を達成した。
- 介護員養成研修2級(2年)の認定者は現在12人で、今年度中の全員の認定を目指している。

【学校経営目標3 「元気な声が聞こえる学校」づくりを推進する】

- 1年生1学期全員入部の取組みにより、部活動の入部率と定着率が上がったが、学業成績不振で部活動の時間に参加できない生徒の増加があり、70.3%にとどまっている。
- 部活動の練習環境の向上は生徒にやる気を起こさせ練習効率を上げたが、文化部の活動が沈滞している。和太鼓部は県の郷土芸能大会に出場したが入賞はできなかった。
- 挨拶運動については日程どおり部員が集まらないこともあったが、積極的に声を掛け合い挨拶運動に参加した部もあり、すべての部が参加し校門前に立ったことは大きな収穫であった。
- 学校連携2年目とうことで、教員同士の交流も進み、合同進路説明会もスムーズに行えるようになった。

【学校経営目標4 地域社会に貢献する生徒を育成し、地域に開かれた学校づくりを行う】

- 選抜(I)は普通科は昨年度を上回る志願倍率だったが、福祉科は昨年度よりも0.05ポイント低い結果となった。
- 選抜(II)は普通科は昨年度を0.2ポイント下回ったが、福祉科は昨年度より0.23ポイント上がった。
- 掃除時間やクリーンアップを利用して活動を行い、多くの生徒が前向きに取組んだ。
- 障害者のスポーツ大会の補助や赤い羽根募金など、生徒は自主的にボランティアに参加をした。
- 様々なボランティアに積極的に参加し、生徒は福祉の心が育ち、学んだことを生き生きと披露している。これまでの活動やつながりから新たなボランティア依頼があり、ボランティア参加延べ人数は増加した。

2 今後の改善方策

【学校経営目標1 自律的規範意識を身につけた生徒を育成する】

- 「皆勤」という目標への意識付けをもっと積極的に行う。基本的生活の確立のため、個人面談の際の大きな目標とする。
- 適切な進路選択の実現のために、保護者と学校側の連携内容を深く進めていくことで転退学者の数を減らしていく。

【学校経営目標2 主体的な学習により、自己を開発し、希望進路を実現する生徒を育成する】

- 本年度の共通学力テストの結果から授業計画の課題・成果を分析し、授業改善計画を策定する。
- 到達度目標を明記したシラバスについて、内容やその活用方法について具体的な計画を作る。
- 本年度はじめて導入した、個人カルテを用いたキャリア開発会議を充実させて、生徒一人ひとりに対する指導を行う。
- 介護員養成研修2級(2年)認定追試験を順次行っている。段階を分けながら規定により認定を出していく予定である。
- 介護職員初任者研修(1年)について、資格取得に対し生徒・保護者に意識付けを行い、学習や実践力を身につけるよう指導する。

【学校経営目標3 「元気な声が聞こえる学校」づくりを推進する】

- 数字の上では1年生全員入部のために入部率は高くなっているが、実際の定着率を維持できるような工夫が必要である。
- 各部活動においての目標設定を明確にして、更なる上位の結果を狙い活性化につなげたい。
- 学校生活上での部活動の評価や周囲の注目度を高め、モチベーションをあげる。
- 文化祭開会式など互いに刺激を受けられるような中身の充実した内容に改良していく。

【学校経営目標4 地域社会に貢献する生徒を育成し、地域に開かれた学校づくりを行う】

- 福祉科の生徒募集について工夫が必要である。全県へPRすると同時に通学可能な範囲の中学校に焦点をあてた取組みをすすめる。
- クラスの美化委員を活動させているが、来年度は自主的な参加者を増やし、内容を充実させたい。
- できるだけ多くの生徒に体験させてやれるよう生徒に働きかけをしていく。
- 引き続き、ボランティア活動を積極的に進めるよう、本校から提案して多くの生徒の参加を促し、生徒を指導する。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

評価方法について

- 評価しても、それが次年度にどのように反映さえるのかが見えない。
- 各評価委員がどのように評価したのかを委員返してほしい。

取組み内容について

- 海外交流がどのような理由でどのように始まったのかという説明がほしい。
- 海外交流自体には意味があったと思うし、交流は楽しく有意義であった。生徒に広い視野を持たせる機会になる。
- 堂々と自分で考えて質問や意見を述べる事が出来るように生徒に教えてほしい。
- 介護の仕事の中身についてもっと情報を生徒に知ってもらう機会を持たせてほしい。
- 遅刻をしないこと、大きな声で挨拶することなどの基本的なことを、入学前後に徹底的に教えてほしい。
- 携帯の使い方については、使うなという指導だけでは限界がある。使い方を含めた研修を入れてはどうか。

平成25年度学校関係者評価シート(年度末評価)

平成25年3月31日

校番	44	学校名	黒瀬高等学校	校長氏名	田中 清裕	全日制	本校
----	----	-----	--------	------	-------	-----	----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	B	<p>○黒瀬高校としての特色を創る目標を設定されてはいいかですか。例えば、福祉科をもっと充実改善してPRするとか、部活動を活発にするなどの特色を出すべきではないでしょうか。</p> <p>○どの項目も簡素化されて、以前のより一層わかりやすくなり、無理のない計画でとてもよいと思います。地元黒瀬で高度な福祉の知識・技術・他が習得できることはこれからの生徒さんの頑張り・資格の合格率UPで周知されていると思います。</p> <p>○一部の評価(C)になるのは、目標値が高いのではと思います。</p> <p>○無遅刻者割合数に変更いただきました。なかなか困難な課題であると思います。目標、指標、計画を一人に焦点を当てて改善を図る必要があると思う。何が原因であるのか個別に掘り下げる必要を感じる。個別の設定(学校生活の視点の個人カルテなどの永続性)が考えられないか。</p>
目標の達成状況の評価の適切さ	A	<p>○よくわかりませんがもう少し厳しく評価してはと思います。どの項目も適切に評価されていると思います。</p> <p>○目標の設定が高レベルで達成できていないものがある。目標設定のレベルを的確に捉える必要がある。多忙の中での目標設定は大変なことだと思う。日常の活動の中で自然の流れで目標が達成できるような視点で取り組みが必要であると思う。進捗の中で方向転換することも場合により必要なのかも知れない。</p>
目標達成に向けた取り組みの適切さ	B	<p>○遅刻が大変多く、改善されていない。地域の人が見ると大変悪い印象を受け、学校の評価に影響していると思われる。社会に出たら会社・会合等に遅刻・欠席したらどうという評価を受けるのか徹底した指導がなされていない。先生方の認識が甘いのではないのでしょうか。</p> <p>○先生方がパンフレット作成・DVD作成・学校での説明会等、創意工夫された活動をされていることがよくわかります。前回の評価委員会で出た案などを積極的に取り入れていただいているところも嬉しいです。適切に取り組まれています。</p> <p>○目標の設定が高レベルで達成できていないものがある。目標設定のレベルを的確に捉える必要がある。多忙の中での目標設定は大変なことだと思う。日常の活動の中で自然の流れで目標が達成できるような視点で取り組みが必要であると思う。進捗の中で方向転換することも場合により必要なのかも知れない。シラバス、個人カルテなどをさらに精度を高めて取り組みの適切さの検証に活用していただきたい。</p>
評価結果の分析の適切さ	B	<p>○どの項目も適切に評価されています。学力向上のための評価方法を示したシラバスの作成目標に対して、1年生において実際に作成し、活用できたのであれば自己評価は「B」ではなく「A」でも良いと思います。就職内定率100%達成は本当に素晴らしい事だと思います。</p> <p>○共通学力テスト以外に「生徒の基礎学力」の評価手法はないのでしょうか。</p> <p>○評価結果の分析はほぼ的を射ているように思う。評価結果が悪くなると予測される場合の軌道修正の機会を逃してはならないと感じる。分析については、生徒の生活実態が多様化しているので、多次元からの視点が必要で有ると思う。シラバス、個人カルテなどをさらに精度を高めて分析に活用していただきたい。</p>
今後の改善方策の適切さ	B	<p>○教職員の意識の統一をしっかりと取り組み、地域からの評価を上げるための取り組みや、福祉科の評価を上げ、入学者の増加に対する取り組みを考える必要がある。</p> <p>○進路指導においては実際に大学・短大・専門学校等に入学した生徒、会社に就職した生徒等に、学生の時に思っていたイメージと実際に入ってからギャップなどを話してもらえる機会があれば、生徒の方もより具体的なイメージがわくと思います。</p> <p>○今後の改善方策はほぼ的を射ているように思う。分析に誤差が生じての対策では改善が望めない。行動や表面だけを見ての改善方策では長続きしない。こころの深層を見極めて、こころをお互いに豊かにする深みのある改善方策を発見し創造して欲しい。シラバス、個人カルテなどをさらに精度を高めて改善方策に向けて活用していただきたい。数年の経過で効果が確認できなかったことについては、問題意識を持ってPDCAのサイクルを廻して新たな取り組みが必要で有ると考える。</p>
総合評価	B	<p>○よく努力されていると思いますが、教職員が一丸となって目標に取り組む必要があると思われれます。この評価制度は形骸化してはいませんか？(毎年同じで進歩が無い。)</p> <p>○校長先生をはじめ、各教科の先生方、各担当の先生方には、時間や労を惜まず生徒達のために日々奮闘されていることを、保護者の一人として本当に感謝しております。色々な個性のある黒高の生徒をある程度のレベルまで持ってゆくこと、将来への目標を見つけさせ、それに向けて努力させる、頑張ることができる力をつける、本人のモチベーションを上げさせることは大変だと思いますが、これからも生徒のためによりしくお願い致します。</p> <p>○(A)の項目が増えてくるのは良いと思います。就職率100%は素晴らしいです。スウェーデンのアルマス高校との姉妹提携について地域の人も好感を持っています。情報発信により生徒の愛校心を高めていけば、学校生活の姿勢に現れると思います。FM東広島・プレスネットなど積極的に情報発信をしていただきたい。学校生活が楽しかったら、朝から笑顔の通学時の態度・姿勢が変わるのは当然だと思います。先生は生徒にとって最大の教育環境です。最高の環境を生徒に与えて、また生徒自ら創造していける黒瀬高校になって下さい。</p> <p>○生徒が誇れる黒瀬高校の創造が、生徒・教員にとって必要な時期に来ているように思う。地域の黒瀬高校・生徒の評価は依然のものと各段の進展が見られる。</p>